

## 平成28年度第3回草津市健幸都市づくり推進委員会議事録

日 時： 平成28年10月20日（木）13時30分～15時30分  
場 所： 市役所4階 行政委員会室  
出席委員： 三浦委員、藤田委員、小沢委員、梅木委員、河前委員、則武委員、  
伊藤委員、神門委員、喜田委員、小枝委員、関川委員、廣田委員、  
村上委員、吉川委員、五十嵐委員、寺尾委員  
欠席委員： 塚口委員、橋口委員、樋口委員、福井委員  
事務局： 山本副市長  
【健康福祉部】太田部長、富安理事、岡本副部長  
【都市計画部】青木総括副部長 【環境経済部】松下総括副部長  
【健康福祉政策課】織田参事、野々村専門員  
【健康増進課】田中課長、井上専門員、田附専門員  
【公園緑地課】荒川課長 【草津未来研究所】中村参事  
傍聴者： 2名

### 1. 開会

---

#### 【山本副市長】

委員の皆様には、大変お忙しい中御出席いただきありがとうございます。市長の公務が複層いたしましたため、私から代わりに御挨拶をさせていただきます。

ウェルネスシティとしてのまちづくりを進めようということで、過去2回にわたり審議をいただき、今回の第3回委員会では計画の本体の御議論に入っていただくこととなります。健幸都市については、歩くことを基本とする健康のまちづくりのアドバンテージということで、60数都市が日本全国で取組を進めています。歩くことは、予防や健康への効果はもちろんのこと、地域の活性化やにぎわいの創出にもつながるなど、大変大きな広がりを持っている取組だと認識しているところでございます。

本日は、それぞれの施策の柱建てに踏み込んでいく会議だと存じます。活発な御議論をお願い申し上げて、御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

#### 【事務局】

<草津市市民参加施行条例に基づき、傍聴者について報告>

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員会が成立していることを報告>

### 2. 議事

---

#### 1) これまでの取組報告について

#### 【事務局】

<資料1に基づき説明>

#### 【主な質疑・意見】

特段の大きな指摘なし。

## 2) (仮称) 草津市健幸都市基本計画素案について

### 【事務局】

＜資料 2・参考資料 1 に基づき説明＞

### 【委員】

「まちの健幸づくり」の「(2) 安全安心に配慮した公共空間の整備」という表現は、漠然としていて掴みにくい。

### 【事務局】

前回の提案では「(2) バリアフリーに配慮した歩道等の整備」という狭い概念であったため、表現を変更し、受動喫煙対策や自転車道対策等も含めた公共空間の整備という形でまとめた。「(3) 出かけたくなるまちなみ・環境づくり」に関しても、同様の御指摘に基づき「(3) 賑わい・うるおいの向上に向けたまちの環境づくり」に変更した。

### 【委員】

「(3) 賑わい・うるおいの向上に向けたまちの環境づくり」について、中心市街地の活性化は、国が郊外への大型店舗の進出を規制しない限り難しいのではないか。

### 【事務局】

草津市の目指すべき方向の一つとして、市全体を元気なまちにしていくためには、まずは中心市街地を活性化していく必要があると考えている。空き店舗の活用や草津川跡地の整備にプラスして、歩いて暮らすまちづくりを展開していくことによって、にぎわいが生まれるものだと思う。中心市街地だけでなく、様々な交流拠点をまわることによって活性化されるような施策を、広く展開していく。

### 【委員長】

デジタルサイネージとは何か。

### 【事務局】

2 m ほどのタッチパネル式の電光掲示板のようなもので、現在、草津駅に設置している。今後は、交流拠点にも設置し、時々に応じた情報を発信する手段として活用していきたいと考えている。

### 【委員】

一人一つ意見を言う雰囲気がある。誰かの質問に対して委員同士が答えたり、同調する意見を言えたりすると発言しやすいが、今の状態では自由に発言しにくい。

莫大な文章に対して、細かな文言の確認をこの場でするのは時間がもったいない。会議は委員同士が意見を言い合う場とし、事務局があとで取りまとめる進め方がよいのではないか。文章が多過ぎて、誰に訴えているか読み取りにくい。

### 【委員長】

第 3 回ということで、根本の部分から具体的な部分に入ってきている段階であり、計画の方向性に対して各分野から御意見いただきたい。より具体的な施策は、今後広がっていくものと思っている。高齢者に関することもこの一部。計画案をもっと良いものにしていくことが目的だと理解しているので、それぞれの御意見をいただきたい。

### 【委員】

ライフステージの青年期が 15～24 歳となっているが、喫煙や飲酒が禁止されて

いる未成年と、そうでない成人が同じ区分になっていることに違和感がある。

「けんしん」の「けん」は平仮名でよいのか。

用語解説は、用語と同じページに記載して、すぐ分かるようにしてほしい。

#### 【事務局】

年齢区分は、健康日本21や健康くさつ21に基づいて記載しているが、御指摘をふまえて整理を工夫していきたい。「けん診」は健康診断の「健」とがん検診等の「検」の両方を表しているのので、注釈をつけさせていただく。

#### 【委員】

あらゆるものが網羅されているので、重点化して効果的に推進した方がよい。運動分野なら、有酸素運動でいえばノルディックウォーク、筋トレなら健康バンドなど、推奨プログラムを示してはどうか。埼玉県では、県全体の推奨プログラムがあり、それに基づいて市が動いている。草津市でも市全体で目標を作り、各地域に合った取組を行ってはどうか。鳥取県では「ウォーキング立県を目指す」としてシンボリックなものを出している。草津市としても、シンボリックなものを打ち出していけないといけない。

また、継続できる仕組みづくりや、計画を市民がどれだけ認識しているかを理解したうえで気運を高めていく仕組みづくりが必要である。

#### 【委員】

地域の公園ではボール遊びが禁止されていて、子どもが遊ぶことは近所迷惑だという考えすらある。中学生が集まっていると、近所の方が不穏な雰囲気を感じて学校に通報してきたりすることもある。今一番遊び場に困っているのは、小学校高学年や中学生。ボール遊びを制限なくできる場所を提供してあげてほしい。

市街地の活性化の話があったが、市街地の人々が本当に何を望んでいるのか知ることが重要。草津の取り柄とするもの、草津の場所を最大限に生かせるもの、草津の顔となるものなど、住民の中から湧いてくるイベントなどがあるとよい。

#### 【事務局】

限られたスペースの中で、一人でも多くの方に居心地良く利用していただくのが公園のあるべき姿との考えから、ボール遊びは禁止している。草津川跡地についても遊具の設置を希望する声があるが、子ども向け遊具もあれば大人向けの健康遊具もあり、また安全面での問題などを考えなければならず、簡単に設置ができない状況である。

#### 【委員】

準公園という、民間の土地を借りて公園にするという制度は検討しないのか。

#### 【事務局】

近隣住民や公園を維持管理する地元町内会の理解も必要であり、周りの仕組みも含めた事業展開を考えている。

#### 【委員】

第4章の白枠内に掲載する事業は、現在実施中なのか、関連計画で実施中の事業も入っているのか、この計画により新しく掲載していくものがあるのかがわからない。目標も併せて、しっかり仕分けておいた方がよい。

**【事務局】**

白枠には、重点事項を記載する予定。それ以外の主なものは、次の枠に記載している。白枠内は、現在実施中の事業もあれば、これから始めていくものもある。予算化を目指している事業もあるので「検討中を含む」と記載しているが、どれが新規事業かわかりにくくなっているので、表現方法は検討していきたい。

**【委員】**

仕事の健幸づくりでは、草津ブランドや地産地消の取組等、現在実施していることは挙がっているが、その他の取組が一行もない。新たな事業はないのか。

**【委員長】**

予算の問題もあると思うが、当計画の目玉的な事業なのか、新しく取り組む事業なのか、他計画に基づき既に行われている事業なのかという区分は重要。概要にも「進めます」と「検討します」が入り混じっており、この表現も確認が必要。

**【委員】**

子どもの運動離れが言われている。子どものときに運動しなかったら、大人になってもしない。運動や遊びができる仕組みづくりを計画に盛り込むことが必要。スポーツ少年団については、競技だけではなく、継続した運動習慣や心の健康づくりへの取組も必要であると感じた。

**【委員】**

若い母親から、不審者等が心配で子どもを公園で遊ばせたくないという話があった。不審者対策など、安全面についても考えていただきたい。

**【事務局】**

大きな公園に関しては防犯カメラを設置しているが、小さな公園は約300弱あり、すべてに人の配置や防犯カメラの設置をすることは難しい。ただし、公園を造る段階で、園内に死角を作らない、通りから見やすい場所に設置する、住宅開発の中央エリアに設置するなど、安全面には配慮しており、今後も検討していきたい。

**【委員】**

基本方針の目標の達成が、健康寿命の延伸にどのように結びつくのかを、文章で補足してほしい。計画策定後の進捗確認についても掲載してほしい。

**【委員】**

ひとの健幸づくりの数値目標と、全体的な指標である健康寿命との整合性がわからない。指標を選んだ理由の記載が必要。

特定健診受診率の目標数値の60%は高過ぎる。達成できる数値にすべき。

**【事務局】**

目標値についてはもう少し検討し、全体的に整合性のとれたものにしていきたい。特定健診の受診率は、既存計画で設定している数値のため、変更は難しい。こういった指標が良いかも含めて再検討したい。PDCAサイクルについては、参考資料1の「計画の期間」に記載したが、もう少し具体的に書き込んでいきたい。基本的には、当委員会で進捗状況等含め、来年度以降も確認いただければと思っている。

**【委員】**

ヘルスツーリズムの「ピワイチ」がもっと盛んになるためには、草津市だけではな

く県全体で取り組まなければならない。草津市として「ビワイチ」を推進するためには、宿泊や入浴施設等の拠点・設備づくりを進めていただきたい。

**【事務局】**

県のまち・ひと・しごと総合戦略でも掲げているが、大津・草津・守山で「ビワイチ」について、県を挙げて取り組もうとしているところである。草津市では、草津川跡地の「区間5」に休憩施設もでき、そこから展開できるのではないかと考えている。草津川跡地の平地化・整備終了後は、栗東までつながりを持った取組を模索している。将来的にということ、今すぐではないけれども、見守っていただきたい。

**【委員】**

ノルディックウォークについてももっと掲載してほしい。高齢者が頑張っている姿をみせることで若い人も一生懸命生きようと思うのではないか。自転車には乗れない人もいるので、誰もが取り組むことができる仕組みを作ってほしい。

**【委員】**

運動で大事なものは、継続すること。単発のイベントだけでは、習慣的な運動にはつながらない。遊びを習慣化できるような仕組みづくりによって、子どもたちが健康になっていく。運動は家の中でもできるので、近隣の施設の活用も考えられる。

**【委員】**

健康づくりの継続は、自分のために何をすればよいかという思いがないと成り立たないので、動機づけをまとめたような区分があってもよい。健診結果は問題がなくても、体力が低下している人は多く、それを把握する機会があれば、動機づけにつながるのではないか。

**【委員】**

健診データの分析とあるが、市の健診データからは生活習慣病のデータしかでてこない。ロコモティブシンドロームについては健診項目に含まれていない。費用の問題もあるだろうが、骨粗しょう症に対する骨年齢測定等、健診内容を充実してほしい。

**【委員】**

野菜の摂取量のデータ等、市民が関心を持って挑戦できるよう、効果的な広報を目指す視点が大切である。また企業・会社として、健診を勧めたり、健診結果をチェックしたりすることは大事。特に、喫煙については認識をいかにして高めていくか。

---

### 3. その他

#### 1) 今後のスケジュールについて

**【事務局】**

<資料3に基づき説明>

**【主な質疑・意見】**

特段の大きな指摘なし。

---

### 4. 閉会

**【事務局】**

<次回日程について説明>